

第二章 調査・分析方法

2-1 校歌収集方法

2-1-1 全学校リスト作成

『データ和歌山`97』¹⁾を参照して、全小,中,高校および諸学校のリストを作成。なおデータは1997年のものである。

2-1-2 校歌の収集について(表 2-1)

[1]全学校に対して郵送にて(新・旧)校歌歌詞の返送を依頼。

[2]催促の葉書を学校長宛に送付

[3]再度催促の葉書を音楽担当教諭に送付

[4]電話あるいは同窓会誌,web などから回収

全歌詞をエクセルファイルに入力し(Appendix 表-1)、分析。

表 2-1 校歌回収状況表

	高等学校			中学校			小学校			その他			合計		
	実数 (校)	校歌回 収数	回収 率(%)	実数 (校)	校歌回 収数	回収 率(%)	実数 (校)	校歌回 収数	回収 率(%)	実数 (校)	校歌回 収数	回収 率(%)	実数 (校)	校歌回 収数	回収 率(%)
海草郡	25	22	88.0	36	35	97.2	85	79	92.9	5	4	80.0	151	140	92.7
那賀郡	4	3	75.0	9	9	100.0	25	21	84.0	0	0	—	38	33	86.8
伊都郡	8	8	100.0	14	14	100.0	36	34	94.4	1	0	0.0	59	56	94.9
有田郡	7	7	100.0	13	13	100.0	41	37	90.2	1	1	100.0	62	58	93.5
日高郡	7	5	71.4	29	29	100.0	51	50	98.0	1	1	100.0	88	85	96.6
西牟婁郡	7	6	85.7	28	28	100.0	58	56	96.6	2	1	50.0	95	91	95.8
東牟婁郡	5	4	80.0	21	21	100.0	32	31	96.9	1	1	100.0	59	57	96.6
計	63	55	87.3	150	149	99.3	328	308	93.9	11	8	72.7	552	520	94.2

2-2 分析方法(表 2-2)

2-2-1 環境イメージ要素の分類

まず、環境イメージ要素とは、環境イメージを出している固有名詞とする。

次に、分類方法として、大分類には、山、川、海のように景観を示す一般名詞で分類し、中分類として、川、山に関しては、紀ノ川水系、長峰山系のように水系、山系で、海に関しては、紀伊水道と熊野灘、太平洋に分類した。また、小分類には、紀ノ川、紀州富士をはじめとする固有名詞を分類した。

表 2-2 分類体系表

大分類	中分類	小分類
川	紀ノ川水系	紀ノ川
		貴志川
		野上川
		神野川
		新淵川
		丹生川（紀ノ川）
		鶴姫川
		鳴滝（紀ノ川）
		玉のせせらぎ
		細川
		柘榴川
		直川
		名手川
		天野川
		古沢川
		鳴川
		根古川
	日高川水系	日高川
		丹生川（日高川）
		鳴滝（日高川）
		大滝川
	有田川水系	荒島
		有田川
		早月川
		玉の水
		五名川
		四村川
	富田川水系	玉川
		富田川
	岡川	岡川
		岡川
	日置川水系	日置川
		日置川
	熊野川水系	熊野川
		瀨峡
		高田川
		幽溪
		北上川
	会津川水系	十津川
		会津川
		三栖川
		長野川
		秋津川
	稲成川	稲成川
		稲成川
	古座川水系	古座川
		古座川
	加茂川水系	加茂川
		加茂川
	和歌川水系	和田川
		藻屑川
	那智川水系	那智の滝
		那智の滝
	切目川水系	切目川
		ほくそ川
	亀川水系	亀川
		亀池
	南部川水系	南部川
		南部川
	芳養川水系	芳養川
		芳養川
	山田川水系	山田川
		山田川
	印南川水系	印南川
		王子川
	周参見川水系	周参見川
		周参見川
	広川水系	広川
		広川
	太田川水系	太田川
		太田川
	由良川水系	由良川
		由良川

大分類	中分類	小分類
山	和泉山系	葛城山
		紀泉山脈
		和泉山脈
		孝子の峰
		青垣山（海草）
		紀北の山
		青見山
		根来山
		三石山
	長峰山系	高野山
		生石山
		長峰山
		雲宮山
		藤白山
		黒沢山
		大日山
		国城山
		雨山
		高倉山
		鳩羽山
		高積山
		明神山
		白倉の峯
		和佐山
		赤木山
		摩尼の山
		釜山
		鷹の巣の山
		とさかの山
		竜王の山
		高畑山
		糸我山
		井財天山
	白馬山系	寛ヶ峰
		白馬山
		矢野山
		飯盛山（日高）
		八幡山
		西山
		高幡山
		紅葉山
		当田の山
		地蔵峰
		丸山
		硫黄山
		雨司山
		護摩権山
	龍門山系	紀州富士
		飯盛山（那賀）
		名草山
		雨引山
		大槌山
	果無山系	妹背山
		果無山
		横山
		高尾山
		秋葉山
		真妻山
		甲太山
		飛山
		竜ヶ峰
		虎ヶ峰
		高城山
		黒岩山
		笠塔山
		岩城山
		衣笠山
		分嶺山
		分嶺の峰
		雨乞山
		須賀の嶺
		光芒山
		三里が峰
		御船山
	大塔山系	龜山
		大塔山
		千穂山
		白帆の山
		三舞山
		水晶山
		熊野山
		清水山
		牟婁の山
		高田富士
		牟婁山脈
		青垣山（牟婁）
		牟礼の峰
		那智の峰
		妙法山
	紀伊山脈	大丸山
		老祖山
		紀伊山脈
		西の峰
		金剛山
	大峰山系	金剛山
		金剛山

大分類	中分類	小分類
海	太平洋	黒潮
		太平洋
	紀伊水道	紀伊の海
		煙樹が浜
		楚都浜
		西浜
		扇が濱
		枯木灘
		二里ヶ浜
		塩津港
		初島
		紀淡の海
		黒島
		片男波
		布引の浜
		双子の島
		神島
		紀の灘
		友が島
		名高の浦
		田鶴の浜
		荒浜
		浪速崎
		紀州灘
		稲積島
		湯見ヶ浦
		飽浦ヶ崎
		琴の浦
		白木の浜
		妹背の浦
		和歌の浦
		潮荒浜
		湯浅湾
		千里浜
		衣奈の浦
		江須崎
		鳴門の渦
		明光浦
		切目崎
		井比の浜
	熊野灘	牟婁の海
		熊野灘
		熊野の海
		牟婁の江
		王子が浜
		千尋の浜
		鶴ヶ浜
		橋杭岩
		錦浦
		牟婁の浦
		串本湾
		伊串浜
		潮岬
		大島
		玉の浦
		牟婁の津
		牟婁の入江
	その他	歴史
		龍山城
		鶴城
		生ヶ丘
		和歌山城
		木食成其
	平野	紀の川平野
		応其が原
		大野ヶ原
		日高平野
		雑賀野
	池	引池
		宇和田池
		古座高池
	谷	小五輪ヶ谷
		蔵王の森
	丘	弥世生ヶ丘
		紀北丘陵
		古佐田ヶ丘

2-2-2 環境イメージ要素の頻度分析

校歌歌詞内の単語を同じ校歌歌詞中に複数回出現するものは一回につき1として分類表に沿ってcountif関数を用いて抜き出し、頻度表として整理し(Appendix 表-2)、表現がやや異なるものであっても、例えば、『紀の川』、『紀ノ川』、『紀水』、…を『紀ノ川』に統一して、同じものとして含める。

2-2-3 環境イメージ要素の関連分析

環境イメージ要素の関連とは、要素を形容している単語に何があるかである。

例えば、伊都高等学校の歌詞であれば、『葛城の峰の彼方に雲湧きて希望を語り紀ノ川の水いや清く澄みわたり理想を映す美わしき平和の園よ栄え行く我らが伊高』であれば、「葛城の峰」に、“彼方”，“雲”，“湧き”が関連していると考え、同様に「紀ノ川の水」には、“清く”，“澄み”，“映す”が関連しているという様に考えた。

固有名詞を形容している単語の検出方法としては、良い方法が見つからなかったため、校歌歌詞から固有名詞と固有名詞を形容している単語を手作業で(目で見ても)検出した。

2-2-4 地域別分析(図 2-1)

県全体、郡別、市町村別、流域別のそれぞれで、頻度分析と関連分析をし、和歌山県全体イメージや、近隣地域のまとまった郡別イメージと、市町村のそれぞれのイメージ、流域ごとのイメージが出す。

また、和歌山県は、険峻な山が海まで迫っており、歴史文化的に流域ごとに生活圏が区切られてきたことから、水系別につまり流域別に分けた。

更に、複数校歌作詞者が抱いている県全体の環境イメージの傾向の違いについても分析する。



図 2-1 和歌山県地図

2-2-5 時間変遷分析

旧校歌および現在の校歌の両者が回収できた学校を抽出し、環境要素の違いを分析する。

また、創立年による環境要素の差違も分析する。

2-3 分析の流れ(図 2-2)

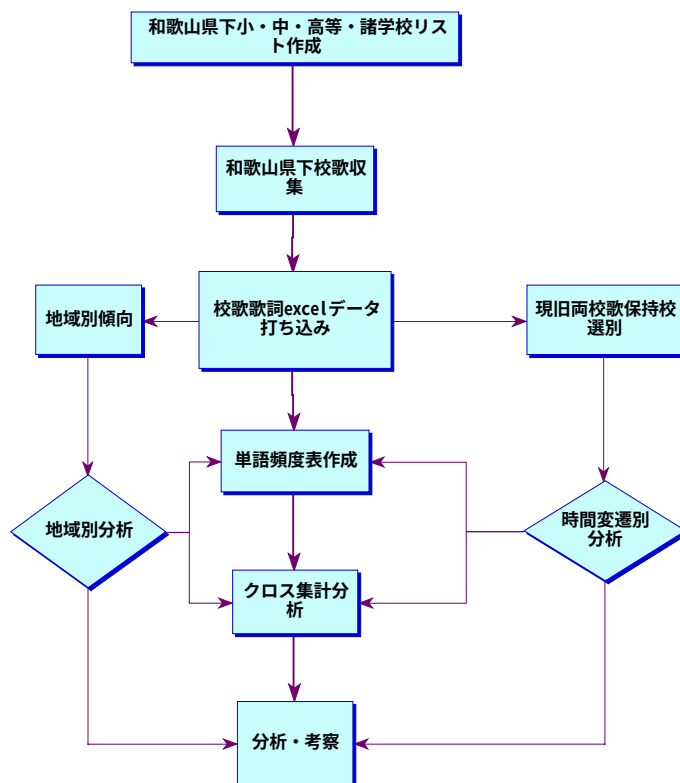


図 2-2 研究方法のフロー

引用文献

- 1) ニュース和歌山(1996)：データ和歌山 ‘ 97, ニュース和歌山